

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2017

平成29年
11月1日発行

No.43

題字 小学校4年 今野 ^{たくと}逞登さん (平成28年度当時)



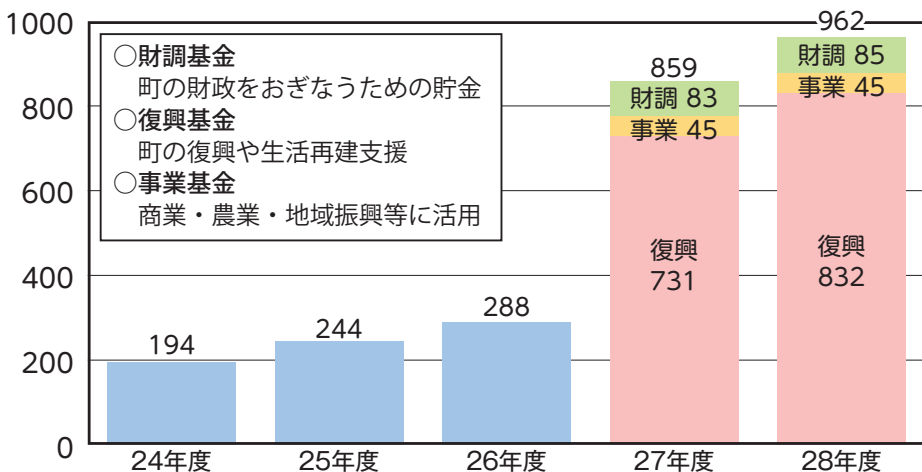
9月
定例会

- ② 基金 新しい町づくりに活用
- ⑥ 町政を問う 復興への課題をとらえて

- ⑤ まちづくり公社設立
- ⑩ 仮設焼却炉 大熊町を優先に

基金総額

過去最高額 962億円 新しいまちづくりに活用



5年間の基金積み立て額の推移 (単位：億円)

監査委員より平成28年度の基金積立て額の報告があり、過去最高額の積立て額となりました。
基金については町の復興など新しいまちづくりに活用します。

平成29年度9月定例会を12日から22日まで開催しました。
今定例会では平成28年度の一般会計決算認定、補正予算、条例改正、人事案件等30議案を審査し、全議案可決しました。

新型タブレット4400台配布

平成28年度の主な事業

ICT利活用

町民のきずな維持のため使いやすいタブレットにかえました
 新型タブレット配布 4400台
 タブレットシステム開発

2億4516万円

1億4148万円
1億 368万円

ふるさと絆応援

会津米、もち、缶詰などを5079世帯に配布しました

5599万円

大熊IC整備

大熊インターチェンジ建設のための負担金です

1億2671万円

中間貯蔵施設地権者支援

中間貯蔵施設整備に関する給付金です

27億3249万円

消防団運営費

消防団員143人分の報酬、活動費用弁償、退職報償金などです

1431万円

基金活用

本来の目的を再考し 現況に即した基金の整理に努めるべき

吉田代表監査委員より、決算および基金運用状況の
審査意見書が提出されました。
主な内容は次の通りです。

平成28年度末合計で財政調整基金85億2100万円
その他目的基金877億3050万円と潤沢な財源を抱えながら健全な財政運営を進めていると言える。

歳入歳出においては、前年度と比較して増加しており、主に福島復興再生加速化交付金や震災復興特別交付税、福島原子力災害帰還困難区域・再生加速化事業委託金の増加によるものである。

収入については、自主財源である町税は42億6463万円であり、内訳は町民税が6億4510万円、固定資産税が36億円である。

収入未済額は4億3662万円であり、前年度より2580万円増加している。追加インターチェンジ整備事業の繰越明許が増額の要因となった。
支出については、大熊町

帰還環境整備交付金基金積立金、電源交付金施設整備事業基金積立金、東日本大震災復興基金積立金と、各種積立金が歳出を膨らませた。また、一般会計や介護保険事業特別会計等で不用品が増加している。医療費や介護保険給付費等の年度末の支払いが予測できないため、ある程度の不用品額が出ることはやむを得ないと認識できるが、今後においても的確な予算積算と適正な予算執行に努められたい。

基金については、復興関係の基金もあわせて本来の目的を再考し、現況に即した基金の整理に努めるべきと考へる。

避難継続を余儀なくされている中、今後も引き続き費用対効果を検証する中で経費削減を図り、効率的な財政運営に努めることを期待し意見とする。

支出総額253億8200万円を認定 滞納金は大幅減

一般会計決算

会計名	収入総額	支出総額	差引き	滞納額	
一般会計	261億2386万円	253億8200万円	7億4186万円	390万円	
特別会計	坂下ダム施設管理事業	4599万円	4095万円	504万円	0
	国民健康保険	27億5920万円	26億6042万円	9878万円	87万円
	奨学資金貸与	1915万円	1586万円	329万円	0
	下水道3事業	5577万円	5544万円	33万円	0
	中央台霊園管理事業	21万円	12万円	9万円	0
	介護保険事業	13億3286万円	12億18万円	1億3268万円	0
	介護サービス事業	603万円	538万円	65万円	0
	後期高齢者医療	2599万円	2569万円	30万円	0

(万円未満四捨五入)

平成28年度
会計別の決算状況

大熊IC 平成31年3月完成 常磐道から町内へ乗降可能

平成28年度決算審査の質疑を行いました。適正な運営か、来年度に繋がるか、厳しくチェックしました。主な質疑内容を報告します。

大熊IC整備

問 追加IC整備に1億2671万円支出されているが、完成時期と完成後の運営はどうか。

答 平成31年3月の完成を目指し測量設計をしている。

完成により一般車輛も乗降できるよう、取り付けの町道西20号線を除染し通行可能にする。

西20号線から国道6号と県道35号線に行けるよう整備したい。

放射性物質調査

問 食品放射性物質分析調査が毎年行なわれている。平成28年度の実績は。

答 実証田等の試験裁

培品目と山菜等個人持ち込み分の検査を実施している。結果については町の広報等で周知している。

太陽光発電

問 太陽光発電事業に500万円寄付されているが、今後の見通しと活用目的は。

答 福島発電機から500万円20年間の寄付が寄せられる。

植物工場の運営費に使用するため基金に積み立てる。

生活サポート補助

問 コールセンター運営に9400万円かかっている。

10年間の事業で9億円かかるのでもったいない。

1年経過したが今後の運営を見直すべきではないか。

答 同意見であり双葉町と連携して国と交渉していく。

事業を短縮するなど早い時期に判断する。

総合検診

問 総合検診受診したくても交通手段のない人もいる。

土日であれば身内で対応してくれる人もいるので考えてほしい。

答 バスを運行している。また、総合検診11日間の内、いわき市で土日の2日受診できる。

老人介護

問 寝たきり老人介護慰労手当を支出しているが、どの様な場合に支給されるのか。

答 要介護4以上の65歳以上の人を家庭で介護する者に対して月額

1万円を支給する制度であり、震災前から町単独で実施している。

消防

問 消防団分団編成を見直さなければならぬと思う。地域別にするのか、グループ化するのか検討しているのか。

答 分団長会議で、消防団運営は分団の求心

力で成り立っているのので、分団編成は難しいとの意見があり当面は今のままでいきたい。

将来は必要になるので検討していきたい。

問 常備消防の負担金2億4254万円の支出はなにか。

答 富岡・浪江・葛尾の消防庁舎新築の負担金である。



町の治安を守る頼れる消防団

土地の利活用を目的とした まちづくり公社設立

平成29年度補正予算の審査を行いました。
主な質疑内容を報告します。

**まちづくり公社設立
2000万円**

10月中旬に土地の利活用を目的とした一般社団法人おおくままちづくり公社を設立します。

まちづくり公社は町と関係団体で組織し、不動産相談窓口事業や空き家・空き地バンク事業からスタートします。

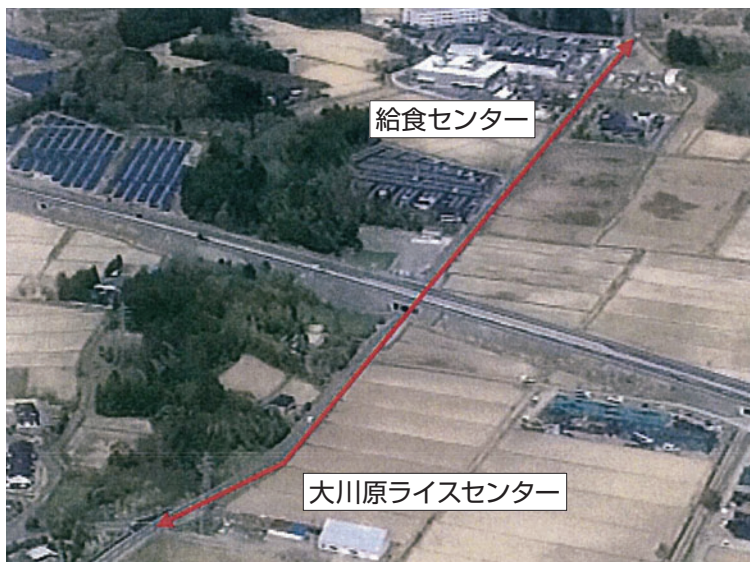
将来的には公共施設の管理や運営などの事業拡張を予定しています。

問 メンバーにJAや農業委員会が構成員になった理由はなぜか。

答 農地利用、不動産鑑定が当面の課題であり、専門家として入ってもらった。

**道路施設改良事業
1億5000万円**

町道東67号線の改良のため測量を実施しているが、改良工事に必要な数量の見直しにより工事が増えるため補正しました。



主要道路として期待される

問 拠点整備工事などとの重複や、企業の車の出入りなど通行には十分に配慮しなくてはならないのではないかと。

答 企業と十分に協議し、片側通行など支障をきたさないよう対応する。

教育委員に庄司ヤウ子氏を再任

採択により同意しました。
賛成9 反対2
任期は平成29年10月より4年間

福島県町村議長会より「全国森林環境税」の創設に関する意見書提出依頼があり審議した結果賛成多数で可決しました。
意見書要旨は次の通りです。

森林が多く所在する山村地域の市町村においては、森林吸収源対策及び担い手の育成等山村対策に主体的に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

また国土の保全や地方創生等にもつながるものであり、そのための市町村の財源の強化は喫緊の課題である。

よって、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

提出先 内閣総理大臣・財務大臣

- 総務大臣・農林水産大臣
- 環境大臣・経済産業大臣
- 衆議院議長・参議院議長



目指せ東大!!

東京大学 赤門前

1人が一般質問

復興への課題をとらえて

ズバリ町政を問う

1. 阿部光 国議員

7

- 下野上農地の耕起対策をとるべき
- ペットや家畜の供養塔を建てるべき
- その他の質問
 - ・記念碑の管理を町がすべき
 - ・中間貯蔵施設地権者が住んでいた証として石碑を建てるべき

阿部 光國 議員



問 下野上農地の耕起対策をとるべき

荒廃防止

答 新たな産業を生み出す

阿部 帰還困難区域内の先行除染の147箇所がまもなく終了する。町はそこに第二の復興拠点区域として居住ゾーン、事業ゾーンの整備計画をしている。さらに、帰還困難区域を特定再生復興拠点として一体的に除染して5年を目途に解除することを計画している。

町長 大熊町農業復興組合が、避難指示解除準備区域、居住制限区域については除染が完了し福島宮農再開事業により除草、耕起等を実施している。本事業の実施要項の中で帰還困難区域でも除染の終了した区域の除草耕起は対応できるようになっている。今後、国や県と協議し大熊町農業復興組合の組合員の拡充等を含め、次年度に向けて事業実施を検討する。除草、耕起だけでなく、農地から新たな産業を生み出す事業の構築を図ってきたい。

問 ペットや家畜の供養塔を建ててほしい

答 鎮魂碑の建立を検討

阿部 東日本大震災および福島第一原子力発電所事故により全町避難を強いられ、家畜やペットが放置されたことは忘れがちなことである。このような動物の供養のためにもペットや家畜の供養塔を建ててほしい。

町長 震災直後すぐに帰れるものと思い、着の身着のまま避難したためペットを連れ出すことが出来なかった。現地にそのままにされ行方不明や餓死するなど動物にとっては厳しい状況であった。牛に関しては畜舎での餓死、放射線の関係から放れ牛となっていた。

た約600頭を薬殺処分した経緯がある。町としても、現在建設が予定されている町営墓地の隣接地もひとつの候補地として考えている。家族同様に育ててきたペットや家畜の供養のためにも鎮魂碑の建立を検討していきたい。



ペットも家族です

平成31年春に職員宿舎設置 新庁舎周辺に30人規模

平成29年8月10日会津若松出張所において委員会を開催し、大川原新庁舎・職員宿舎、まちづくり委員会・ふるさと未来会議の取組み状況を調査しました。
主な質疑内容を報告します。

大川原新庁舎

問 平成31年春完成予定になっている大川原新庁舎の具体的なスケジュールは。

答 平成29年10月中旬に基本設計をまとめ、実施設計を平成30年3月に完成させ建設開始し平成31年春頃に業務開始出来るよう進めていきたい。

問 庁舎は周辺の景観に調和した意匠を考えているのか。

答 建物内外に木目調を取り入れるなど、周辺の森と緑をイメージした意匠を考えている。
問 災害対策棟にはどのような機能を持たせるのか。

答 災害対策会議室、

非常食などを保管する防災備蓄倉庫、放射線検査室、非常用発電機等、災害時の初期対応が万全にできる機能を持たせる。

職員宿舎

問 新庁舎の完成に伴い、100人規模の職員が従事することになる。職員宿舎も新庁舎完成時期までに設置しないとならないと考えるが進んでいるのか。

答 30人程度入居できる職員宿舎を新庁舎周辺に設置する。

現在、宿舎運営や「スト面を精査している。設置時期については平成31年春に予定している新庁舎での業務開

始時期には完成させる。

町づくり委員会

問 町づくり委員会の設置目的は、また今までのような運営をしてきたのか。

答 町民の代表として議会・行政区長会・商工会・復興建設協同組合等、町内11団体の代表者で構成し、大川原復興拠点をはじめ新し

い町づくりに対して助言、協力して頂くことを目的に設置した。

平成29年3月23日に第1回会議を実施し2回開催している。各団体から町づくりに対する貴重な考えも打ち出されて取り入れていきたい。

問 これからの会議の進め方をどうするのか。
答 特定復興再生拠点

計画の申請、新しい町づくり等、助言を頂く機会として適宜開催していく。

ふるさと未来会議

問 ふるさと未来会議を設置して一年になるが、どの様な成果を感じるか。

答 30年後の中間貯蔵施設返還後、40年後の福島第一原子力廃炉終了を見据えた将来の新たな町づくり計画を考案するため若手職員を中心に長期の会議体として設置した。

月に2回の会議を開催するとともに、ワークショップ（体験型講座）や新しい町づくりの先進地への視察などを実施してきたが、自分たちで町を創っていくとの意識の高まりを感じる。



安心して生活できる宿舎をイメージ図

大川原復興拠点にデイサービスを設置 特養施設は人材確保が課題

平成29年8月8日いわき出張所において委員会を開催し、大川原復興拠点整備、墓地整備などの取り組みを調査しました。
主な質疑内容を報告します。

大川原連絡事務所

問 証明書を発行していることが浸透していない。周知をはかっているかどうか。

答 タブレット、広報紙等を活用し周知していく。

とするにあたり大型車が常時通行するが耐震はクリアしているのか。

答 県道でもあり確認して対応する。

したが公的な交流になりつつある。そうなれば町も支援していく。

いを住民に対して上手く整理して広報できないか。

訪問相談

問 社協相談員と介護補助員の活動内容の違い。

答 個別の具体的な内容によって事情は異なるが役割分担の周知方法は検討したい。

介護施設

問 大川原復興拠点に介護施設を計画しているようだが職員の確保をどう考えているのか。

答 復興拠点整備を進める中で、まずはデイサービスから始めたいと考えている。介護事業は法人としてはやらないと経営は難しいと言われている。
特別養護老人ホーム施設をつくれれば60〜70人は必要になり、人材の確保は難しい。

廃炉作業

問 東電の排気筒解体の際、放射性物質が舞い上がらない対策を講じるよう町がはたらきかけるべきではないか。

答 東電と協議している。

ダストモニターは設置しており、放射性物質は町独自でも確認している。

墓地

問 汚染しているお骨は持ち出すことができるのか。

答 洗ってお骨が基準値以下になれば持ち出せる。

個別に環境省と協議してほしい。

町道

問 町道西20号線通行止めの迂回路を清水橋

特定復興再生拠点

問 特定復興再生拠点整備計画を国にいつ頃申請するのか。

答 当面8月16日の管理者会議で協議をし、議会、行政区長会と協議しながら10月頃申請する。

ひまわりプロジェクト

問 ひまわりプロジェクトは今後どのようにもっていくのか。

答 これまで2回実施



多くの町民が参加できるプロジェクトに

仮設焼却炉 大熊町優先に焼却する



完成間近な仮設焼却炉 早期の運用が望まれる

平成29年7月27日、会津若松出張所において環境省より中間貯蔵施設の現状について説明がありました。その説明を受け10月6日に現地視察を行いました。
主な質疑内容を報告します。

中間貯蔵施設

問 仮設焼却炉は平成30年3月運用開始となっているが、何を優先的に焼却するのか。

答 仮設焼却炉については町有地を提供していただいた。

大熊町の除染廃棄物を優先に焼却する。

町と協議しながら進めていく。

問 県内の廃棄物は実際どれくらいあり、いつ頃までに搬入を終えるのか。

答 今年3月末の時点で1500万ト強となっている。

大熊町、双葉町の帰還困難区域の除染がこれからあり、もう少し増える予想される。

搬入から5年、平成32年を目標としているが、最終的に何年で搬入が終わるかはもう少し時間をいただきたい。

中間貯蔵施設の用地

問 中間貯蔵施設の用地とし国が求めているのは1600ヘクタールである。実際にどれくらい使用するのか。

答 1500万ト〜2000万ト搬入するためにはどれくらいの施設が必要か示さないと伝わらないと思う。

そういうものを早く作り、やはり土地は必要なんだという説明をしていく。

納骨堂

問 中間貯蔵施設内にあるお骨を一時保管する納骨堂をつくと聞いている。

どのような施設をどこにつくるのか。

答 場所は国道6号線沿いの大和久地区に作る。

当面45世帯分の納骨が可能な施設とする。

大熊1C

問 大熊1Cは平成31年の3月開通を目指しているとのことだが、供用開始すれば町道西20号線は土壌運搬により交通量が増える。バイパス道路の進捗はどうなっているのか。

答 大熊1Cが開通した時には輸送ルートを変えるように考えている。

中心市街地を避けたルートを考えているが、今後用地買収等も必要になってくるので町当局と連携していきたい。

汚染水対策が課題 廃炉への道のりは長い



汚染水は長期的な課題

汚染水浄化設備

平成29年10月3日、福島第一発電所構内を視察しました。

1〜4号機の状況を実際の現場を見ながら確認しました。

課題となっている汚染水の浄化方法や貯蔵の状況、遮水壁や地下水バイパスによる対策大型休憩所など労働環境改善の取り組み、燃料デブリ取り出しへ向けた新たな技術開発など廃炉へ向かう発電所の現状を確認しました。

帰町へ向け発電所の安定は欠かせません。廃炉への道のりは長く今後も定期的に視察を行い注視していきます。

伝える広報から 伝わる広報へ



長い文章は伝わらない

平成29年9月28日、全国町村議会広報研修会に参加しました。

伝える広報から伝わる広報へ、電子広報なにがどう変わってきたか、議会広報コンクール優秀賞受賞誌から学ぶの3講演を受けました。

①長い文章は伝わらない、短く書くこと。

②難しい言葉を使うと読まれない、常用漢字を使いひらがなを多く使用する。

③余計な情報は入れない、シンプルに伝えたいことを書く。

今回の研修を活かし町民のみなさんが読むことを意識し、伝わる広報を目指します。

“小さく生んで、大きく育てよ”の交流の輪をめざし 大熊山田会

今年の春に、いわき市山田町に大熊山田会を50名の会員参加のもと発足しました。

「小さく生んで大きく育てよ」を合言葉に会員同士の親睦と融和、そして助け合いの心を持ち、いも煮会・バーベキューなどを催し和気あいあいの雰囲気の中で楽しんでいきます。

これからも定期的に交流の場を企画いたしますので、皆さんの気がねない参加をお待ちしています。

会長 三瓶道教
事務局 石田和枝
☎090-2958-4174



ゲームで笑いがたえない



みんなで良い会にしましょう

編集後記

震災から7回目の秋です。今年も鮭の戻る季節になりました。

熊川に戻ってくる鮭たちはどんな思いでふるさとの川に戻ってくるのだろうか。4年の歳月を、荒波にもまれて誰もいなくなった故郷の川をめざして帰ってきます。

その姿を見てうるつとなるのは私だけでしょか。その姿を見て勇気づけられるのは私だけでしょうか。

あの頃の賑わいには戻れませんが、せめて戻れる環境だけは守ってあげたい。議会広報編集に携わって2年、折り返しですがタメ出しの連続です。残り半分、鮭に勇気をもらって、親しみやすい広報紙づくりに努めてまいります。

松永 秀篤

広報公聴常任委員会

委員長	阿部 光國
副委員長	仲野 剛
委員	佐藤 照彦
委員	木幡ますみ
委員	加藤 良一
委員	堀川 巨夫
委員	松永 秀篤
発行責任者	鈴木 光一